

6 市町村の取組

市町村は、県民に最も身近な行政機関として、妊娠、出産から育児及び乳幼児保健についての一貫した母子保健サービスを実施しています。

平成8年度から、市町村母子保健計画を策定し、平成12年度以降、計画の見直し等を行っています。この見直した（見直している）計画に基づき、県民のニーズに対応した次の様な母子保健サービスの推進を期待します。

- (1) すべての親と子が地域で安心して生活できるよう母子保健サービスの充実に努めます。
- (2) 母子健康手帳交付時に母子保健サービスの情報提供や保健指導の充実に努めます。
- (3) 妊婦、産婦、新生児、乳幼児等の身近な相談の場として、また育児支援等を含めた保健相談や家庭訪問の充実に努めます。
- (4) 予防接種や虫歯予防、事故防止等こどもの健康の予防対策に努めます。
- (5) 乳幼児健康診査において育児支援等を含めた体制の整備や事後及び未受診者のフォローの充実に努めます。
- (6) 県民一人ひとりが目標にむけて取り組むことができるよう環境整備を含めた支援を行います。
- (7) 関係機関と連携を図り、地域の実情やニーズに応じた施策の展開、推進を図ります。

なお、県民運動の推進を図るために、次の市町村から具体的な取組方針をいただきました。

また、現在、計画を見直している市町村においては、計画（案）ですので、今後、県民や関係機関と検討しながら数値目標を設定したり、具体的な取組を進めていきます。

- ・ 桑名市
- ・ 多度町
- ・ 長島町
- ・ 木曾岬町
- ・ 四日市市
- ・ 菰野町
- ・ 楠町

- ・川越町
- ・鈴鹿市
- ・亀山市
- ・津市
- ・芸濃町
- ・一志町
- ・嬉野町
- ・松阪市
- ・飯高町
- ・大台町
- ・勢和村
- ・伊勢市
- ・大宮町
- ・志摩町
- ・阿児町
- ・磯部町
- ・上野市
- ・名張市
- ・伊賀町
- ・島ヶ原村
- ・阿山町
- ・大山田村
- ・青山町
- ・尾鷲市
- ・海山町
- ・熊野市
- ・御浜町
- ・紀宝町
- ・紀和町
- ・鵜殿村

桑名市

【目標】

- 安心して子どもを産み育てることができる地域づくりを目指します。
- 子どもが健やかに成長できるよう地域みんなが支えることができるよう取り組みます。
- すべての親子が必要な保健・医療サービスを受けることができる体制づくりを目指します。

【評価指数】

- ・ 育児関連の教室や相談に参加する人数
- ・ 地域健康推進員の活動回数
- ・ 乳幼児健康診査の受診率、未受診者に対するアプローチの割合
- ・ 妊婦健康診査の受診率
- ・ 予防接種の受診率
- ・ 小児救急医療体制の整備

【課題と方向性】

- 組織・機構の整備、施設の改善・整備、人材確保など保健センターの充実や関係機関との連携強化を図ります。
 - ・ 施設の改善・整備のため新施設を建設計画中です。
- 核家族化、孤立化など育児が困難な社会情勢の中、母性・父性をはぐくむため、両親への知識の普及や相談、地域支援体制を充実していきます。
 - ・ マタニティセミナーや育児教室を休日に開催し父親の参加を促進していきます。
 - ・ 各地区で活動中の地域健康推進員の増員と資質の向上を図り、身近で気軽に相談できる体制を整えます。
 - ・ 教室・相談の場を利用し、本を媒介に望ましい親子関係構築の手助けをしていきます。
- 医療体制の整備
 - ・ 小児の夜間一次救急体制を整備します。

多度町

【目標】

- 安心して子どもを産み育てることができる地域づくりを目指します。
- 健やかな成長と子育てを地域みんなで支えることができるよう、取り組みます。

【評価指標】

- ・ 乳幼児健診受診率
- ・ 予防接種の接種率 (3) - ① - 16、(3) - ① - 17、(3) - ① - 18
- ・ う歯罹患率 (3) - ① - 10
- ・ 出生時の全数訪問、健診未受診児の訪問などによる把握の徹底
(1) - ② - 2、(1) - ② - 3、(2) - ③ - 2
- ・ 育児について相談相手のいる母親の割合 (2) - ② - 1

【課題と方向性】

多度町では、母子健康手帳交付に始まり、パパママ教室、妊婦健診、出生届提出後の予防接種などの説明、乳児訪問、育児相談、予防接種時育児相談、離乳食教室、乳児健診、遊び場の開放、幼児教室、幼児健診、幼児歯科検診など、事業にも食生活推進改善推進員、ボランティア、保育園などの協力を得て、子育て支援を展開しています。しかし、近年著明な少子高齢化、核家族化、外国人の転入などにより、多様な子育て支援が必要とされてきています。

- 1 育児不安の軽減、相談場所を確保するために、乳児全数訪問と育児相談や電話相談など、相談業務の充実をはかります。
- 2 幼児健診に心理相談員の個別相談等も実施し疾患や障害の発見だけでなく、健やかに育児が行えるよう、支援体制を充実させます。
- 3 予防接種に対する周知をはかると共に、各個別予防接種歴をデータ管理し、未接種者に対しての指導など支援を充実させます。
- 4 う歯に関してはアンケート調査を実施中ですが、その結果よりう歯に対して事業、教室などの支援を充実させます。
- 5 ボランティア、保育園、幼稚園、学校など地域ぐるみの子育て支援の連携を充実させていきます。

長島町

★ママパパ学級

【目標】

- 安心して妊娠・出産・育児に取り組むために必要な知識等を身につけられます。
- 家族と一緒に子育てをする気持ちづくりや、親同士の交流を図り安心して子育てできる環境を整備します。

【評価指標】

- ・ 知識を得ることの出来た人の割合の増加
- ・ 教室に参加したことで、家族で妊娠・出産・子育てに取り組もうと思う人の割合の増加
- ・ 親同士の交流が図れた人の増加

【課題と方向性】

- (課題)・参加者の増加により交流が難しくなっています。
(平成11年度53人→平成13年度84人)
- ・ 内容も幅広く、個々に応じた内容が難しい状況にあります。
- (方向性)・参加者がより交流しやすいように、内容を見直していきます。

★児童虐待防止ネットワーク事業

【目標】

- 町全体としての虐待防止対策の検討
- 母子保健事業、家庭教育活動等、広い意味で子育て支援体制を実施している機関の連携の充実
- 関係各種機関の職員の知識や技術の向上
- 虐待事例へ早期支援体制の整備

【評価指標】

- ・ 虐待防止施策内容の充実、質の向上
- ・ 連携機関数の増加、連携内容の質の向上
- ・ 虐待に関する知識が増えた関係機関職員の増加
- ・ 虐待件数の増加防止、支援体制をとっている被虐待児の増加

【課題と方向性】

各種関係機関に対して取組を始めたところであるため、支援体制の整備・充実を図ると共に、今後一般住民にも広く周知していきます。

★療育教室

【目標】

- 親子交流、親同士の交流、発達相談（育児上の不安解消に役立てるため）

【評価批評】

- ・ 参加者数の増加
- ・ 参加者の満足度の向上
- ・ 発達相談利用者の増加、満足度の向上

【課題と方向性】

- ・ 参加者が少なく、また障害も多岐に渡っているため、参加者間で思いを共有することが難しいことがあります。しかし、参加者が各種サービスについて情報交換をしている場面も見受けられるため、今後も引き続き支援していきます。
- ・ 参加者が自立したグループとして活動していけるよう参加者と共に検討していきます。

木曾岬町

【目標】

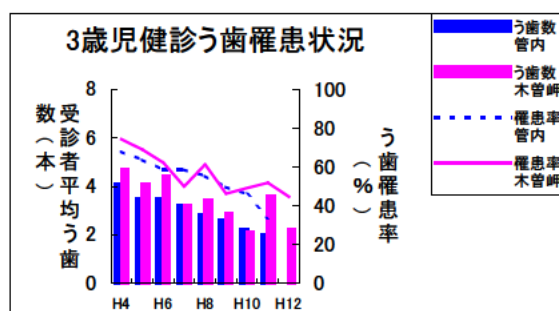
- H17年度3歳児健診受診者の1人平均むし歯本数を、「1本」にします。
(3)－①－10

【評価指標】

- ・哺乳瓶に甘いジュースを入れる人の減少(H13:41.1% ⇒ H17:10%)
- ・フッ素塗布を継続して受ける人の増加(H13:30.4% ⇒ H17:80%)
(3)－①－12
- ・甘い味を覚える時期が2歳より遅い人の増加 (H13:8.9% ⇒ H17:40%)

【課題と方向性】

下記のグラフの通り、当町のう歯罹患率状況は、桑名管内と比較して高く、町の健康課題として対処を求められています。



そこで、H13年度地域住民と話し合いを行い、上記の目標・評価指標を設定しました。これに基づき、H14年度より下表のように目標達成のための取組を実施します。

年齢	お口の健康づくり事業名	主な指導内容	評価指標
2ヶ月頃	赤ちゃん訪問	果汁の与え方指導	①
3・4ヶ月	のびのび親子指導室	果汁の与え方のチェックと指導	①
6・7ヶ月	すこやか親子指導室	ジュース・間食の与え方指導	①③
9・10ヶ月	すこやか親子指導室	間食の与え方指導 フッ素のはなし	①②③
1歳	集団フッ素塗布助成	フッ素塗布の実施 フッ素塗布(継続塗布)の指導	②
1歳4ヶ月	集団フッ素塗布助成	フッ素塗布の実施	②
1歳半～ 1歳9ヶ月	1歳6ヶ月児健診	ジュース・間食の与え方指導	①③
1歳8ヶ月	集団フッ素塗布助成	フッ素塗布の実施	②
2歳	集団フッ素塗布助成	フッ素塗布の実施	②
2歳～ 2歳3ヶ月	2歳児はみがき教室	個別フッ素塗布の説明 継続受診の必要性指導 ブラッシング指導 ジュース・間食の与え方チェックと指導	②③
2歳4ヶ月	個別フッ素塗布助成	医療機関におけるフッ素塗布・歯科検診	②
2歳8ヶ月	個別フッ素塗布助成	医療機関におけるフッ素塗布・歯科検診	②
3歳	個別フッ素塗布助成	医療機関におけるフッ素塗布・歯科検診	②
3歳半～ 3歳9ヶ月	3歳児健診	定期受診の必要性 仕上げがきの必要性	

四日市市

～四日市市少子化対策の基本的な考え方より～

【基本理念】

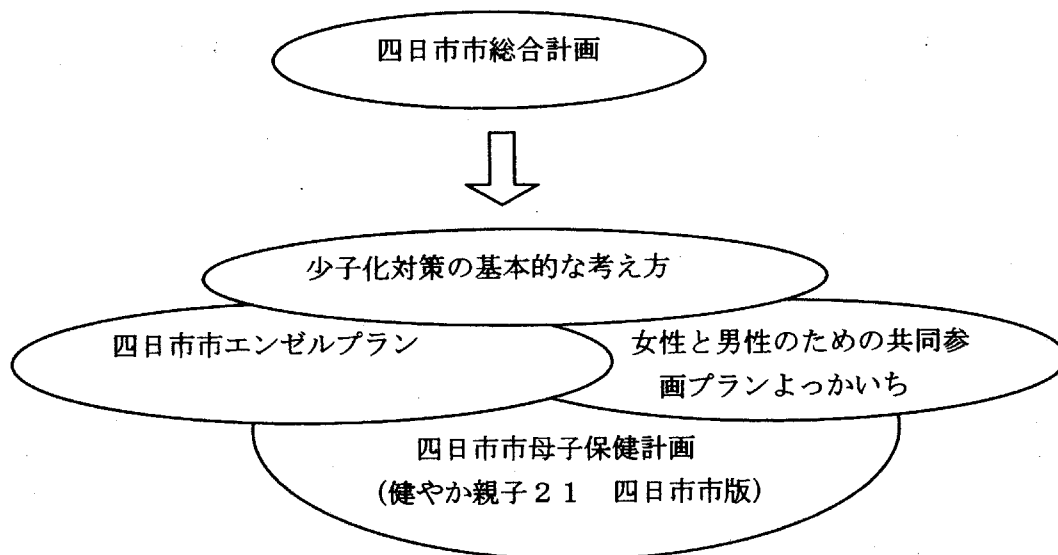
子どもと子育てにやさしいまち四日市

【基本目標】

1. 社会全体で子育てを支援するための意識づくり
2. 子どもがのびやかに育つ教育環境づくり
3. 安心して子どもを産み、育てることができる社会環境づくり
4. 子育てしながら働き続けることができる職場環境づくり
5. 子どもを産み育て暮らしやすいまちづくり

～四日市市母子保健計画（健やか親子21 四日市市版）のイメージ図～

平成15年度策定予定



【母子保健事業における健やか親子21の取組】

1. 育児学級「パパママ教室」「ぴよぴよクラブ」、「プレママ栄養教室」の実施
赤ちゃんを見るのも抱くのも初めてという親が増加しているため、体験型・交流型の教室を実施し、父性母性の滋養、育児の孤立感・不安の解消を図ります。
2. 事故予防教室の実施
SIDSの予防、小児の事故予防のため、心肺蘇生法等の具体的な指導を行います。
3. 1歳6か月・3歳児健康診査の充実
 - (1) 疾患や障害の早期発見だけでなく、親子遊び、親子の様子を観察等により、育児不安や虐待兆候の早期発見とともに相談を実施し、必要な親子には継続指導を行います。
 - (2) 未受診者の状況把握を家庭訪問等で実施します。
4. 四日市市児童虐待防止ネットワーク会議への参加
 - (1) 地域子育てネット0～6への参加
虐待未然防止活動として、未就学児童のうちかわりが必要な親子に対し、地区の関係機関と連携し、育児支援を行うとともに、保育園幼稚園の子育て支援事業に参加し、相談を実施します。
 - (2) 行政機関情報交換会への参加
虐待及びそのおそれのある家庭に関する情報を交換し、関係機関の連携のもと、指導の充実を図ります。

菰野町

【目標】

- ころおだやかに妊娠出産ができる
- 安心して子育てができる
- 子どもの健康づくり
- 障害や病気があってもその子らしい成長ができる
- 豊かなころとからだを育む

【評価指標】

健診や各種教室では充実したスタッフによる質の高いサービスの提供をめざし、参加した母子が安心と信頼とゆとりを持てるように特に力をいれています。

- ・ 1歳6か月児健康診査の受診率 96.4%→100%
- ・ 三歳児健康診査の受診率 90.4%→100%
- ・ 2歳6か月児歯科健康診査の受診率 14年度開始→80%
- ・ 子育てに自信をもっている母親の割合 アンケート調査を実施→増加傾向へ
- ・ 子育てが楽しいと感じる母親、父親の割合 アンケート調査を実施→増加傾向へ
- ・ 子どもをかわいと思う親の割合 アンケート調査を実施→増加傾向へ
- ・ 育児について相談相手のいる母親の割合 アンケート調査を実施→増加傾向へ
- ・ 夫が相談相手、精神的な支えになっている母親の割合 アンケート調査を実施→増加傾向へ
- ・ 育児に参加する父親の割合 91.1%→増加傾向へ
- ・ 三歳児健康診査時のう歯のない児の割合 59.3%→70%以上
- ・ 1歳6か月までに三種混合の予防接種を終了している者の割合 89.8%→95%

【課題と方向性】

- ・ 妊娠初期からのサービス提供
- ・ ハイリスク妊婦への支援体制
- ・ 妊婦の夫をはじめとする妊婦をとりまく環境づくりと育児参加
 - 方向性→妊婦の現状把握、妊娠初期の教室、妊婦相談、ハイリスク妊婦の支援、個別支援の充実、父子健康手帳の交付、祖父母学級
- ・ 育児機能低下への対策
- ・ 孤立する母子への育児支援体制
- ・ 多様化する個々のニーズに応じた支援
 - 方向性→個別支援、発達確認の実施、地区巡回育児相談
- ・ 乳幼児期から生活習慣病予防を視野に入れた対策
 - 方向性→2歳6か月児歯科健康診査、アンケートによる幼児の生活習慣の把握

楠町

【目標】

- 安心して育児のできる支援体制づくりを目指します。

【評価指標】

- ・ 安心してのびのびと子育てができるよう関係機関の連携により、幅広い育児支援を図ります。
- ・ 気軽に参加できる、母親同士・子ども同士の交流の場所をつくります。
- ・ 育児による保護者のストレス・不安の軽減を図ります。
- ・ 日常の育児について相談相手のいる、保護者の割合の増加を図ります。(2) -②-1
- ・ 子育て講座の割合の増加を図ります。(2) -①-4

【課題と方向性】

現在、保育園・幼稚園・中央公民館・おもちゃ図書館（社会福祉協議会）・保健センター・児童民生委員等について、関係機関が協力して育児支援を行っています。委員会を開き、各関係機関が個々に育児支援を実施するのではなく、町民にわかり易く気軽に参加できるよう、一括して出席簿をつくり、幼稚園就園前のお子さんのいる家庭すべてに、民生委員の協力を得て配布しています。これは、わかり易くて参加しやすいと好評であり、参加時にシールを貼ることに対しても、楽しみとなっているようです。今後もより参加する機会を増やし交流を図れるようにすると共に、いつでも相談体制がとれるようにしていきます。また、母親同士・子ども同士の交流を図りながら、誰にでも相談できる機会を増やし、保護者のストレス・不安の軽減に努めていきます。

保育園・幼稚園・おもちゃ図書館（社会福祉協議会）等については、主に交流の場の提供・相談支援体制をとり、保健センター・中央公民館等については、主に育児についての学習の場の提供・相談支援体制をとっています。学習の場だけとなると、どうしても参加人数が減る傾向にあるため、特に保健センターでは、今、知りたいこと・不安なこと等アンケートをとり、保護者の希望に添った学習内容になるよう、一人でも多く参加してもらえるよう取り組んでいます。更に、学習の前に親子遊びを取り入れるなどの工夫をしています。保護者にとっては、子どもを遊ばせながら学習する機会が得られるということで、参加し易くなっています。

今後は、一度も参加していない保護者に対しての啓発にも力を入れながら、更に町全体の子育て支援についての取組を知ってもらい利用していただけるよう、パンフレットを作成するなど検討します。それには関係機関との連携を更に深め問題点の追求・取組の検討を図らなければなりません。そして安心して育児のできる支援体制の充実を図っていきます。

川越町

【目標】

- 健やかに子どもを産み育てることができる地域づくりを目指します。
- 地域みんなが子育てを支えることができるよう取り組みます。

【評価指標】

- ・ 出生時の訪問を全数実施する。
- ・ 乳幼児健診・予防接種未受診者のフォローを実施する。
- ・ 日常の育児について相談相手のいる保護者の割合

【課題と方向性】

母子手帳交付を保健指導の基点としてとらえ、母親が妊娠・出産に安心して臨めるよう支援すると共に、以後、児の健やかな成長を共に見守り、支援できることを伝えていきます。

出生後、新生児訪問を全数実施し、当町の母子保健サービスを紹介し、利用を促す中で、育児不安・虐待防止のため子育てするもの同士が互いに交流を深め、子育てを支援できる体制作りを目指します。

鈴鹿市

【目標】 鈴鹿市児童育成計画「親と子の未来プラン」による

計画年度：平成13年度～17年度まで

- 子どもの権利を尊重する環境の実現
- 親と子が心身共に健康でいられる環境の実現
- 多様な子育てニーズに対応する環境の実現
- 子育てをみんなで支える環境の実現
- 子どもの健全育成活動が充実している環境の実現
- 親と子がゆとりを持ち、安全に暮らせる環境の実現

【評価指標】 保健センター部門

- ・ 「育児相談」、「家庭訪問（妊産婦、乳幼児）」、「新生児訪問指導」などの訪問指導件数 (1) - ② - 1・2・3
- ・ すくすくファミリー教室の開催回数・参加者数 (2) - ① - 5
- ・ 乳幼児健康診査の受診率（未受診者のフォロー件数）(2) - ② - 5
- ・ 妊婦健康診査の受診率
- ・ 予防接種の接種率 (3) - ① - 16・17

【課題と方向性】

鈴鹿市では、子どもを持つ親への支援や子どもの健全育成として様々な施策を展開しています。しかしながら、少子化を始めとする昨今の急激な社会状況の変化は、鈴鹿市においても例外ではありません。そこで、より一層の取組の充実に向けて、児童育成計画「親と子の未来プラン」を策定し、様々な施策を積極的に推進しています。

保健センターでは、妊婦の健康を守るために、妊婦中の前期と後期のそれぞれ1回、乳児については、4か月児と10か月児を対象に、指定の医療機関に委託し、公費負担による健康診査を実施しています。

また、幼児の健康の保持増進を図るため、1歳6か月児と3歳6か月児を対象に、保健センターで集団健診を実施し、必要に応じ指定医療機関による精密検査を実施しています。

これら乳幼児健診の未受診者や予防接種の未接種者のフォローについて、母子保健地域推進員の協力を得るなど体制の確立を図ります。

また、妊娠期の母親や子育て中の両親等に対して、育児上の不安や悩みの解消を目的として助産師・栄養士・食生活改善推進員・保健師・保育士等による講話・体験学習を行う「すくすくファミリー教室（マタニティコース・離乳食コース・おやつクッキングコース・子育てコース）」の開催や、助産師による新生児訪問、保健師による育児相談を実施しています。

今後もどなたでも気軽に相談できる育児支援体制の確立に努めていきます。

亀山市

【目標】

- 心身共に健やかに子供を産み育てる事ができる地域づくりを目指します。
- 家庭、地域において安心して子育てができるよう取り組みます。

【評価指標】

- ・ 乳児・幼児健診受診率
- ・ 予防接種の接種率
- ・ 育児関連の教室や催しに参加する親の人数
- ・ 健診未受診者に対するアプローチの有無

【課題と方向性】

それぞれの家庭において、家族ぐるみで安心して子育てができるよう、子育てに対する情報の提供を行うと共に、妊娠期から就学時までの児及び保護者を対象に、各種教室相談、健診などを行っています。

又、核家族化などにより子育てに対する悩みや不安を持つ母親が増えており公的な相談機能の充実を図ると共に、各種教室においても母親同士の交流の場を作り、意見交換等を行っています。

又、父親の育児参加を促すため、パパママ教室の開催、パンフレットの配布等を行っています。

しかし、これら事業に参加されない方の実態は把握されていない為、今後においては各種健診等の未受診者の実態把握及びフォローを行っていきたいと思います。

一方、増加している外国人への対応、発達面で支援を要する児へのフォローの充実が今後の課題となっています。

津市

【目標】

大目標：子どもがいきいきと輝く ゆたかなまちづくり

中目標：子育て支援のための公的基盤の整備

小目標：子育て啓発等の充実

健康支援の充実

【評価指標】

- ・ 妊産婦及び子どもを対象とした健康相談等を利用する人数
- ・ 母子保健推進員の活動回数
- ・ 市政だより、ホームページ、保健センターロビー等で子育てに関して啓発する回数
- ・ 妊婦及びその家族を対象とした教室の開催回数及び参加人数(2)－①－4
- ・ 乳幼児を対象とした教室の参加人数(2)－①－4
- ・ 乳幼児健康診査の受診率及び未受診者の把握割合(2)－③－2
- ・ 妊婦健康診査の受診率
- ・ 妊産婦、乳幼児の訪問指導件数
- ・ 予防接種の接種率(3)－①－16・17
- ・ 小児救急体制の整備

【課題と方向性】

少子化や核家族化、女性の社会進出の進展に伴い、地域や家庭の養育機能が低下しているとともに、子育てに関して身近に相談できる人がいなかったり、子育てが精神的、身体的に負担になっている保護者も多くなってきている現状です。

そのため、各種子育て支援事業を実施していますが、利用していない保護者もいることから、周知のための啓発と保護者の立場に立った効果的な内容の検討等その充実を図ります。そして、保護者の不安や急な病気・事故等への適切な対応ができる相談・医療体制を整えていきます。

また、健康診査未受診者については、関係機関への連絡、訪問指導等により受診勧奨しているところですが、虐待予防とその早期発見の観点からもよりいっそうの状況把握に努めていきます。

幅広く妊産婦や乳幼児を持つ家庭を支援し、子育て環境の整備を図る観点から、ヘルスポランティア（健康づくり推進員、食生活改善推進員、母子保健推進員）や関係機関と連携のもと、家族で子育てに関わり、地域が見守っていく雰囲気づくりをしていきます。

なお、この計画は、平成12年度に「エンゼルプラン“つ”」として策定したものであり、平成16年度に向けて現在進行中のものです。

芸濃町

【現状評価】

芸濃町では超少子高齢化社会が進行しつつあります。明日の社会を担う子どもは、私たちの大切な宝物です。この大切な子どものすばらしい未来のために、教育・医療・保健・地域社会・行政など、子どもに関わる人々がそれぞれの役割を果たしながら、密接に連携し協力し合うことが重要です。子どもたちが健康に育てば、大人やお年寄りにとって住みよい社会になります。また、今の子どもたちが健康に関心をもてば、その次の世代の子どもたちも健康に育ちます。子ども健康情報ネットワーク推進委員会を核に関係者が密接な横のつながりとネットワークの良さを活かして子どもたちにやさしい町づくりに取り組みます。

【目的】 子どもたちが健康に関心をもち健康に育ちあうために 子どもたちが自分の身体や命を大切に感じられるように 若い世代から健康づくりに関心をもつために

- 子どもたちにかかわる関係者が十分に連携します。
- 子どもたちにかかわる関係者が子どもたちの健康問題についてよく理解し、できる活動をはじめます。
- 子どもたちの健康状況を把握し問題点を明らかにします。

【課題と方向性】

- ・ 子どもたちの健康に関する問題点を把握します。
- ・ 子どもたちの健康づくり対策を推進するために企画・立案をします。
- ・ 子どもたちの健康づくり対策の普及啓発をおこないます。
- ・ 子どもたちの健康づくり対策を効果的におこなうネットワーク化を推進します。
- ・ 子どもたちの健康づくり対策の実施効果の評価をします。
- ・ その他子どもたちの健康づくり対策を推進します。

【目 標】

- ◎小中学生の身体測定・歯科健診結果（DMF 値の推移）
（H13 年度実績）DMF 値 3.0 本（全国平成 11 年度 2.4 本）
（H15 年度目標）DMF 値 2.4 本へ
- ◎町内で健康づくりに取り組む施設数や回数内容の増加
（H13 年度実績）健康づくりの取組 中学校（1/1） 小学校（4/4）
（H15 年度目標）町内全保幼小中学校で取り組まれる
- ◎朝食を食べる割合の増加
（H13 年度実績）朝食をほとんど毎日食べる 84.8%（中学 H13・9）
（H15 年度目標）90%に
- ◎子どもたちの健康や子育てが町の話題となる
（H13 年度実績）学校ほけんだより 子どもネットワークの冊子
（H15 年度目標）広報 ホームページ ほけんだより 子どもネットワークからの発信

一志町

妊婦期

【目標】

- 妊娠・出産に安心して臨むことができるよう支援します。
- 妊娠中の情報の提供（説明）や指導を充分受けることができるように支援します。
- 不安なく、出産後の育児や家事ができるように支援します。

【評価指標】

- ・ 母子手帳の交付週数。
- ・ 母子手帳交付時の保健指導の実施状況。
- ・ 低体重児出生率、死産率。

【課題と方向性】

- ・ 妊娠・出産に関して適切な情報が得られ、安心して出産ができるように母子手帳交付時の保健指導、妊婦相談などを行います。
- ・ 妊娠・出産・産後における必要なケアが受けられるように、妊婦訪問、乳幼児訪問、第1子訪問、産婦訪問を行います。

乳幼児期

【目標】

- 育児が楽しいと感じ、ゆったりとした気分でこどもと接することができるように支援します。
- 育児やこどもの健康についての悩みを相談できる機会を積極的に設けます。
- こどもの健康の保持増進や事故予防をするためのサービスを利用できるように、情報提供や相談を行います。

【評価指標】

- ・ 乳幼児期に多い死亡原因。
- ・ 乳幼児死亡率。
- ・ 各種乳幼児健診の受診率。

【課題と方向性】

- ・ こどもの発達に応じた育児や健康に関する知識・情報を得られるように、乳幼児相談や乳幼児健診、育児教室、離乳食教室、歯科保健教室、乳幼児の事故予防についての啓発を行います。
- ・ 育児支援が必要なときに気軽に受けられるように、保健事業のPRや健診スタッフの充実、母子保健推進員の育成、活動のPRを行います。
- ・ 行政の行う小児医療費公費負担制度を利用できるように情報提供をします。

嬉野町

【現状評価】

核家族化、少子化がすすみ身近に子どもの育っていく姿をみる機会が減っています。また、情報化社会であらゆる情報が氾濫するなかで適切な情報が得られにくくなって、不安を抱える母親が多いようです。そこで、子育ての不安や負担が母親ひとりだけにかからないようにし、両親そろって育児を楽しめるように環境を整えたり、地域全体で子育てしていこうとする意識づくりが必要と考えます。また、子どもの生活習慣の乱れもみられます。健康な心身をつくる出発点であり、家庭のしつけだけでなく地域・保育園・幼稚園・学校・医療機関等が連携を深める必要があります。

【目標】

- 1 子育ての負担・不安が一人の親だけにかからないようにしていきます。両親そろって子育てが楽しめるような意識づくりや地域全体で子育てしていく環境を整えていきます。
- 2 食生活を重視した基本的な生活習慣や社会性を身につけられるようにし、将来の生活習慣病の誘因とならない健全な身体を育成していきます。
- 3 命が芽生えた時から健やかに育つことができるようにしていきます。
- 4 子どもが身近なところで自然を相手にのびのび遊べる機会や環境をつくっていきます。
- 5 人とのあたたかいふれあいを喜び、命の大切さを感じられるようにしていきます。

【課題と方向性】

- 1 子育ての不安解消と楽しさを増やすための子育て支援事業を充実するとともに、父親と母親が協力しあって子育てすることが大事なことを啓発していきます。
- 2 妊婦と乳幼児に食育を重視した支援をしていきます。
- 3 母子保健サービスの充実とフォロー体制を強化します。
- 4 自然とふれあえる遊びの場所や機会について紹介したり、催しをしていきます。
- 5 健康の大切さや命の尊さを学習する場をつくっていきます。家庭・学校・地域・医療機関などと連携を深めます。

これらの取組について、H12年度策定の嬉野町保健計画をもとにして住民と行政がそれぞれの役割を協力しながら実施していきます。

【評価指標】

* 母親の子育ての不安について

(平成 9 年度調査) 母親の育児不安度の平均点数 34.5 点

(平成 16 年度目標) 母親の育児不安度の平均点数が 30 点に下がる。

(平成 9 年度調査) 育児不安の強い人の割合 25%

(平成 16 年度目標) 育児不安の強い人の割合が 20% に下がる。

* 基本的な生活習慣について…虫歯にかかっている子の割合

(平成 9 年度実績) 3 歳児健診 : 59.5%、小学生 : 60%、中学生 : 56.7%

(平成 18 年度目標) 3 歳児健診 : 43%、小学生 : 50%、中学生 : 40%

* 子どもが自由に遊べる場、機会

(平成 12 年度) 各保育園の子育て支援事業、町の親子くらぶ、絵本読み聞かせの場等

(平成 18 年度) 充実・増加

【目標】

大目標 子どもが健やかにのびのび育ち、安心して子育てできる松阪市

妊娠期・・・中目標 妊娠を喜び安心して出産できます

- 小目標
- ① カップルがパパ・ママになった時のことを想像して、楽しくお茶を飲んでいます。
 - ※【青写真】 ② 妊婦が笑顔でマタニティライフを過ごし、家族みんなが赤ちゃんに会えるのを楽しみにしています。

子育て期(子)・・・中目標 子どもがのびのび遊び健やかに成長できます

- 小目標
- ③ 子どもが朝、気持ちよく目覚めて、おいしく朝ごはんを食べています。
 - ④ 子どもが、みんなと一緒にいろんな遊びを楽しんでいます。

子育て期(親)・・・中目標 いきいきと楽しく子育てができます

- 小目標
- ⑤ 親が元気に笑顔で子育てを楽しんでいます。
 - ⑥ ちょっと気分をリフレッシュしたい子育て真っ最中の親が集まって話をしています。

地域とのつながり・・・中目標 子どもと親の成長を応援してくれる地域

- 小目標
- ⑦ 乳幼児を連れた親が、近所の人に声をかけてもらいます。
 - ⑧ 親が仕事をしながら安心して子育てできる環境。



どうすれば実現できるか、条件・具体策について、話し合いました。

※【青写真】とは、目的関連図(風船図)の中で目標にむかって‘こんなふうになったらいいな’というあるべき姿の具体的なイメージ

【評価指標】

- 保護者の育児不安・相談者の有無に関する割合 (2)－②－1
- 健康診査・乳幼児教室等の状況・満足度
- 子育てサークルの活動状況
- 子どもが遊べる施設や公園の情報提供の状況

【課題と方向性】

目的関連図(風船図)を作成後の課題

妊娠期

- ◎禁煙教室 ◎思春期教室
- ◎新生児訪問等の充実 婚姻後のカップルへの事業PR

子育て期(子)

- 生活リズム・食育・歯科保健などの知識の浸透および実行
- 子育て教室・子育てサークル・子ども向けイベントなどの充実

子育て期(親)

- 子育て教室・子ども向けイベントなどの子育て学習機会の充実
- 子育てサークル支援

親自身の生活習慣の見直しの機会

地域とのつながり

- 子育て支援センターなど他子育て支援機関との連携
- ◎異世代間交流

今後の事業計画にもりこんだもの◎ 既存の事業を充実してきているもの○

飯高町

【目標】

- 妊娠を喜び、安心して出産ができる地域づくりを目指します。
- 子どもたちが素敵な失敗を体験でき、子育て、親育てを応援してくれる地域・仲間・専門家ネットワークを育みます。

【評価指標】

- ・ 赤ちゃんに触れ合える健診に参加する中学生の割合
- ・ 安心して出産を迎えられるという妊婦の割合
- ・ 健診や相談に参加する妊婦の割合
- ・ 子どもは地域で育てるものだと考える人の割合
- ・ ネイチャークラブに参加する親子の割合
- ・ 地域行事に参加する親子連れ・老人の割合
- ・ 注意やほめることのできる大人の割合
- ・ 子どもの行動を知っている親・地域の人との割合

【課題と方向性】

- ・ 近年、思春期における性行動の活発化、10代の妊娠・出産の増加、薬物乱用・喫煙・飲酒の広がりがみられます。また、不登校や引きこもりなど思春期の心の問題もみられます。中学生への性教育講座の開催や、幼児健診への参加による赤ちゃんとのふれあい、育児体験とあわせて、生命を大切にすることを考える機会をつくります。
- ・ 町外から嫁いでくる女性が増えているため、慣れない土地での出産に不安を感じたり、育児で孤立している人がみられます。また、父親の育児参加は見られるものの、地域ぐるみの育児支援力の低下や世代間交流の機会も少なくなっています。

子育てを母親だけで抱え込んでしまわない地域づくりとして、子育てサークルの育成・サークル間交流会、父親・祖父母等も参加できる行事を企画していきます。



大台町

【目標】

- 安全に妊娠出産ができる体制づくりを目指します。
- すこやかに、楽しく、安心のできる環境で子どもを育てることができるよう取り組みます。
- 生涯を通じた健康づくりを支援します。

【評価指標】

- ・妊娠第11週までの妊娠届出の増加
- ・妊婦の喫煙者の減少
- ・母子健康手帳に発育の記録を行う親が増える
- ・事故予防対策を行っている家庭の割合
- ・保育士、心理士を配置した健診開催数
- ・子育て自主グループ数と子育て教室参加者の増加・学校保健会への参加
- ・健診に来て良かったという母親の割合
- ・育児に積極的に参加する父親の割合と父親の育児参加に満足する母親の割合
- ・母と子の料理教室開催回数
- ・かかりつけの医師・歯科医師を持つ人の割合
- ・一日の歯磨き回数
- ・育児不安を持つ親の割合と育児相談をするところがない母親の割合
- ・子どもに虐待と思える行為を行ったり、行いそうになったことのある親の割合
- ・母乳で育児をする母親が増える
- ・乳児訪問の実施回数
- ・子育て環境に対する住民の満足度
- ・たばこ問題に関する事業開催数
- ・定期的に歯科健診を受ける人の割合

【課題と方向性】

『安全な妊娠出産を確保』するために、「妊産婦の健康管理」、「医療機関との連携の強化」、「親意識の育成」に関する取組に努めます。

『すこやかな成長を支援』するために、「出生前からの一貫した健康管理」、「乳幼児健診の実施・充実・受診勧奨」、「育児情報の提供、病気・事故予防・虐待予防策の展開」、「障害の早期発見と対応体制の充実」に関する取組に努めます。

『楽しい子育てを支援』するために、「仲間づくりの支援」、「育児相談を実施」、「育児支援につながる心の問題に留意した乳幼児健診の実施」、「子育て意識の啓発」に関する取組に努めます。

『安心のできる子育て環境の整備』をするために、「働く母親支援のための保育体制の整備」、「保護者の医療費負担の軽減」、「遊び場等の施設・道路の整備」、「地域を巻き込んだ子育て意識の啓発」に関する取組に努めます。

『生涯を通じた健康づくりの支援』をするために、「出生前から一貫した体制で児の健全育成を支援」、「乳幼児期からの健康的な食生活習慣を支援」、「歯科保健に関する取組の強化」、「生活習慣病の予防」、「たばこ問題に関する取組の強化」、「思春期保健の取組の強化」、「医療機関との連携」、「健康づくり推進協議会の効果的な運営」等に関する取組に努めます。

勢和村

【目標】

- 妊娠を喜び、安心して出産ができる体制づくりを目指します。
- 安心して、健やかな育児ができる地域づくりを目指します。
- 地域で、子育てネットワークができるよう取り組みます。

【評価指標】

- ・ 妊娠第 11 週までの妊婦届けの割合
- ・ 正しい性知識を知っている中学 3 年生の割合
- ・ 妊娠中に喫煙や飲酒をおこなう人の割合
- ・ 乳幼児健診でのフォロー児の数
- ・ ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合
- ・ 子どもを持つ母親が夫から十分な精神的サポートを受けていると思える人の割合
- ・ 育児について相談相手のいる人の割合
- ・ 育児を通じて新しい友人ができる人の割合
- ・ 自主的な育児サークルの数
- ・ 地域の行事に参加する親子の割合
- ・ 地域で子どもを持つ親や子どもに声かけができる住民の割合
- ・ 乳幼児とその家族が集まれる場の数
- ・ フォーマルなサービスが充実していると思える人の割合

【課題と方向性】

近年、勢和村では出生数の減少により乳幼児やその家族同士の交流の機会が少なくなっています。また、母親の中には慣れない土地での出産により不安を感じていたり、育児で孤立している人もいます。父親の育児参加はありますが、そういった中で母親は父親に対してはねぎらいの言葉をもらうなどの精神的サポートを求めています。そして、地域に対しては仲間づくりなどの交流を求めています。

親世代の育児経験や体験の不足により、子どもに生活習慣を身につけさせることを困難に感じている親がいるように思います。また、乳幼児期の集団体験の少なさより、子ども自身も社会性が育ちにくくなっていると考えられます。

当村はこれらの課題に対して、子育てを地域で考えていけるような地域づくりと母親が母親同士はもちろん周囲の人も巻き込んだネットワークを自らつくれるように、住民ボランティアといっしょに交流の場所の提供（子育て仲間・異世代間）や育児情報の提供（母・父・祖父母・近所の人）を行っていきたいと思います。また、多様化する子育てニーズを満たせるように、常に地域にアンテナをはって、ニーズを把握しながら、時代にあった子育て支援施策を計画・実施していきたいと思います。

伊勢市

～いろいろな子育て事業に取り組んでいる中から、むし歯バイバイ教室を紹介します～

【目標】

大目標：子どもを安心して健やかに産み育てられる環境づくりを目指します

小目標：乳幼児期におけるう蝕予防に取り組みます

【評価指標】 3歳児健康診査におけるう蝕のない幼児の割合の増加

【課題と方向性】

- ・むし歯予防への啓発を行います
- ・むし歯保有率のさらなる減少を目指します
- ・フッ化物の継続塗布率の増加を目指します
- ・教室の事業評価を行います

むし歯バイバイ教室

教室で目指すもの！！

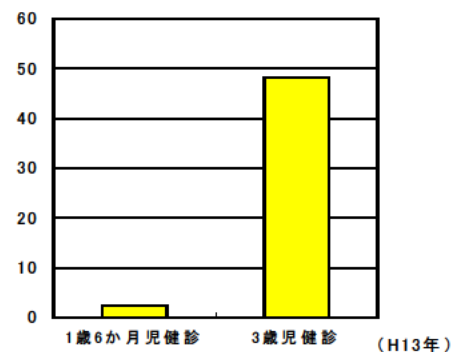
1歳6か月児健康診査から3歳児健康診査までの2年間で、むし歯は、急速に増加します。(右グラフ参考)

乳歯がむし歯になると、永久歯の歯並びが悪くなったり、食事が減少したりと発育発達にさまざまな影響を及ぼします。

むし歯は自然に治るものではないため、予防をしていくことが大切です。

教室で、むし歯予防に関する正しい知識を持っていただき、むし歯の増加を防いでいきたいと思っています。

(%) 伊勢市におけるむし歯のある子の割合



教室ではどんなことをするの？

2歳6か月児と保護者の方を対象に、教室を行っています。

対象者には、個別で教室の案内を行います。

内容

- ・歯科医師の講話
- ・歯科衛生士によるブラッシング実習
- ・歯科健康診査
- ・希望者にフッ化物の塗布、身長体重測定、子育て相談



フッ化物について
正しく知ろう！！
(講話の様子)



歯みがきの仕方を
アドバイス！
(ブラッシングの様子)



むし歯はないか
歯をチェック！！
(歯科健康診査)



フッ化物はむし歯になりにくい強い歯をつくる働きがあります。
むし歯予防には、定期的なフッ化物塗布が有効です。
(フッ化物塗布の様子)

大宮町

【目標】

「みんなで作ろう ともだちの輪！！」

- 健やかに子どもを育てることができる地域づくりを目指します。
- 地域のみんなで子育てを支えることができるよう取り組みます。

【評価指標】

<保健水準の指標>

- ・ 子育てに自信が持てない母親の減少
- ・ ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の増加

<住民自らの行動の指標>

- ・ 町内の母子保健事業を知っている人の増加
- ・ 母子保健事業に参加する人の増加
- ・ 母子で知り合い(友達)がいる人の増加
- ・ 育児について相談相手のいる母親の増加

<行政・関係機関の取組の指標>

- ・ 乳幼児とその家族が集まれる場の増加
- ・ 個別訪問回数の増加
- ・ 母子保健事業のPRの機会の増加

【課題と方向性】

出生数が年々減少傾向にあり、兄弟も少なく、お母さん方からは一緒に遊ぶ子どもがいない、近所の子どもに関する情報が得られないなどの声が聴かれます。このような状況から、母子が地域で孤立し、育児に悩んでいるのではないかと考えています。そこで、お母さん方から希望のあった母子が気軽に集まれる場と機会をもっと増やすために、今年度から絵本の読み聞かせの会と親子で気軽に集まって自由に過ごせる場として遊びの広場を開設しました。これらの事業は、転入されてきたお母さん方にも好評です。また、2ヵ月児の全数訪問を実施し、母子保健事業のPRとお母さん方からいろいろ希望を聞いたり、早期から相談相手の一人として加えてもらえるようにしています。

保健師だけでなく地域で子育てを支えていくために、町広報紙やケーブルテレビでの事業の紹介をしていますが、今後保育園での子育て支援の現状の把握と連携も必要と考えています。

また、同居世帯が多いため祖父母に対しても育児に関する情報を提供していくことで、母親の育児に関する悩みを少しでも軽減していきたいと思えます。

アンケート調査などできちんと現状を評価していないので、今後実施していこうと考えています。

志摩町

【目標】

- 乳幼児期の子どもをもつ保護者（母親自身や家族）が安心とゆとりをもって子育てができるまちづくりを目指します。

【評価指標】

- ・ 日常の育児について相談相手のいる保護者の割合 (2) - ② - 1
- ・ 日常の育児について主な保育者以外に協力してくれる人がいる割合
- ・ 子育てを楽しんでいると感じる保護者の割合
- ・ 子育てに不安や悩みをもつ保護者の割合
- ・ 親子が気軽に遊べる場や交流をはかれる場の状況

【課題と方向性】

「近所に自分の子どもと同じ位の年齢の子がいない」「近くに自分の子どもとよく似た年齢の子どもがいるかいないかもわからない」「身近な場所に気軽に親子が集まれる場がない」などの声がきかれ、地域に親子が安心して遊んだり交流できる場が少なく、安心とゆとりをもって子育てをするための育児環境の整備が必要であると考えられます。

健康相談等の場でアンケートや聞き取りを通して地域のニーズを把握し、乳幼児期の子育てを支援するための基盤整備について検討していきたいと考えています。

阿児町

【目標】

「健やかでやさしさのある子育てを推進しよう」

【評価指標】

- ・ 乳幼児健診の未受診者のフォローを実施する (2) - ③ - 2
- ・ 日常の育児について相談できる場がある
- ・ 事故予防の周知の充実
- ・ 齲歯のない3歳児の増加 (3) - ① - 10
- ・ 一人あたりの虫歯本数 (3歳児) の減少
- ・ 毎日睡眠前に親が仕上げ磨きをする児の増加
- ・ 1歳6か月までに断乳した児の増加
- ・ 3歳までに定期的にフッ化物歯面塗布を受けたことがある幼児の増加
(3) - ① - 12

【課題と方向性】

阿児町は転入転出が激しく、母親が身近に相談相手を見つけにくい環境です。乳幼児相談などでかなり細かい育児内容まで相談する人もいて、母親の育児不安の解消の必要を感じます。そのため、育児不安の解消につながる相談事業をより充実させます。また健診での未受診者のフォローも継続して行います。

ちょっとした不注意でおこる子どもの事故を防ぐためには事故防止の認識を深めることが必要です。現在乳幼児相談等で事故予防のパンフレットを作成し、配布していますが、今後も継続し、内容を充実させていきます。

生涯を通じて健康で豊かに過ごすためには丈夫な歯であることが大切です。なかでも乳幼児期は歯の清掃や食習慣などの基本的な生活習慣を身につける時期であり、この時期の乳歯の状態が永久歯に強く影響すると言われています。歯科保健対策から乳幼児の生活習慣の確立を図り、生涯を通じた健康づくりにつなげます。ヘルシーピープルみえ・21で乳歯の健康について取り組んでいるのでそれに沿って進めていきます。

目標を推進していくために住民、行政、関係機関が協力、理解できるように働きかけ実践していきます。

磯部町

【目標】

人と人のつながり・こころのゆとり・あったかい家庭や地域の中で、その人らしくこころとからだを育まれる地域づくりを目指します。

【評価指標】

〈住民の姿としての指標〉

- ・ 1歳6か月児、3歳6か月児で好き嫌いありの割合と内訳
- ・ 磯部の自然を利用して外で楽しく遊んだり体を動かす乳幼児の親子の割合
- ・ アレルギー体質の子どもを持つ親が日常生活の対処法を習得している割合
- ・ 0～3歳児の親で年齢や発達に応じた関わり方がわからない声の割合
- ・ 3歳6か月児の便通、起床就寝時刻の状況割合
- ・ 0～3歳児の親子同士の交流の機会を求める声の割合
- ・ 妊婦が妊娠期、育児期を有意義に過ごせるよう、心と体のリラックス法を知っている割合

〈行政・関係機関の取組の指標〉

- ・ 高齢者が子どもの健康づくりに関わるができる環境づくりの有無
- ・ 地域全体で子どもの健康づくりを考え協働する機会づくりの有無
- ・ 磯部の自然を利用して遊ぶことができる環境づくりの有無

【課題と方向性】

現在、子育てを通じて交流する機会や学ぶ機会等整いつつありますが、環境となる側間のコミュニケーションや住民と環境側のコミュニケーションが深まっていないために、事業や催しが実施され、利用しているという状況にとどまっている部分もあります。子どもが心身ともに健やかに成長していくには、事業の実施と利用という点の状況にとどまらず、どんなことをしたらいいのか（事業の開拓）の前に、ねらいは何なのかを環境側と住民で今一度、共に考える必要があります。

家族で、地域で子どもの健やかな成長を見守り、応援していけるようあらゆるところで「コミュニケーション」を取り入れていきたいと考えておりますが、今後は子育て支援センターと保健センターが拠点となって、子育て連絡会議や一体化した周知、応援団との協働、地域でつくる計画等進めていきたいと考えています。

上野市

【目標】

- 家族が健やかに暮らすことができる
- 地域が子育てを支えることができる
- 地域社会全体が余裕を持って子育てに臨める

【評価指標】

- ・ 健診の未受診者のフォローの徹底 (2) - ③ - 2
- ・ 健診事業における育児支援の強化 (2) - ② - 2
- ・ 子育てボランティアの増加 (2) - ⑤ - 1
- ・ 各事業における乳幼児事故防止対策の強化 (3) - ① - 6, 7, 9

【課題と方向性】

上野市は従来、多世代に渡る同居による子育てが多かったのですが、少子高齢化にともない、核家族が増え、子育ての情報を身近な方から知ることができない状況になってきています。

一方、子育て雑誌、インターネットの普及により、育児情報が氾濫していることにより、どの情報を利用したらいいのか、悩むケースが増えています。

また、全国的な傾向に漏れず、乳幼児・児童虐待も増加傾向にあります。

そうした状況において虐待は、育児不安から発展するケースが多くあることから、受診率の高い1歳6か月児健康診査や3歳児健康診査において体の発達のみに注目するのではなく、育児支援体制を強化し、相談しやすい健診体制を整えます。

また、妊娠中から乳幼児期、思春期における子育て相談を気軽に身近な人に行えるように、子育て支援ボランティアを育成し、支援します。

同時に、従来から実施している妊産婦・新生児・乳児訪問、母子健康手帳の交付、各種健康診査、予防接種業務、その他健康教育など乳幼児と乳幼児を育てる家族の心と体の健康づくりを中心に、保育所・保育園・小中学校など子どもを取り巻く関係機関と連携し、「上野市に生まれてよかった」と思える健康づくり体制に努めます。

名張市

【目標】

- 子どもが心身共に健やかに育つ。
- 楽しく育児ができる。

【評価指標】

- ・ 育児が楽しいと思える母親の割合を増加させます。
- ・ 育児に参加している父親の割合を増加させます。
- ・ 育児について相談相手がいる母親の割合を増加させます。
- ・ 用事があるときに子どもを預かってくれる場所、人の有無について調査を行い、今後の対策について検討します。
- ・ 保健センターの育児支援事業への参加の割合を増やすとともに内容を検討します。
- ・ 保健センターへの電話相談件数を増加させます。

【課題と方向性】

今日、少子化や核家族の増大、地域連帯意識の稀薄、情報の氾濫等で母子を取り巻く環境は大きく変化しています。このことが母子の健康におけるストレスの原因となり、母親の育児不安、母子の心の問題など新たな社会問題が生じています。また、女性のライフサイクルの中でも特に産後はストレスのかかりやすい時期で、分娩施設を退院した直後の1ヶ月までは両親が育児上の困難や不安を感じる人が多いと考えます。また、名張市では、転入出が激しく、結婚を機に名張市に越してきた人が多く存在し、妊娠・出産を迎えています。そういう人たちは、知人がいないことや新しい土地での環境の変化から孤立感や不安感が増大し、ストレスが強い中で育児をし、育児不安やカプセル親子状態の時には虐待につながる状況があると考えます。

そのような状況の中で、気軽に相談できる者や、育児に関する適切な情報提供や個々の母子にふさわしい育児支援をすることが必要です。

そこで、ハイリスク妊婦だけでなく、新生児訪問を実施することで、母親の不安が少しでも解消し、楽しいと思える育児ができるように、また、健やかな母子関係が育つような支援が必要と考えています。

方法は医療機関の協力を得て、分娩施設の退院時に、『赤ちゃん訪問連絡票』（SOSハガキ）を2枚渡してもらいます（おかあさん用、おとうさん・おじいちゃん・おばあちゃん用）。そして、母親や家族から返信してもらいます。

同時に従来から実施している各ステージの訪問事業、各種健康診査、予防接種事業、母子健康手帳発行教室等の健康教育・相談等を充実させ、子どもを取り巻く関係機関と連携しながら、名張市の子どもと子どもを育てる家族・地域等が心身ともに健やかに生活できるよう支援体制の強化に努めます。

伊賀町

【目標】

- 楽しく育児ができる
- 子どもを産んでよかったと思える
- 地域で子育てを支えられる

【評価指標】

- ・ 子育て支援事業への参加者の状況
- ・ 妊娠・出産について満足している方の割合
- ・ ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合
- ・ 育児について相談相手のいる母親の割合
- ・ 日常的に育児に参加する父親の割合
- ・ ちょっとした用事があるときに、子どもの面倒を見てくれる人の有無

【課題と方向性】

子育て支援事業として、おやこネットを平成13年10月に立ち上げ、各種事業を開始しました。

子育て支援事業の内容としては

- ・ おやこネット（ホームページ）による情報提供及びメール相談
- ・ ぴよこっこ広場、ぴかぴかベビーのつどい、育児サロン、リフレッシュサークル、ワーキングマザー（ファーザー）のつどいなどの交流の場の提供（写真①②）



写真①



写真②

- ・保健福祉センターのプレールームを開放し、交流の場を設ける
- ・子育てサークルへの支援

子育て支援事業を母子保健事業の核として、町内の全ての母子に何らかの形で関わりを持ち、仲間づくりをしていきたいと考えています。そして将来、「伊賀町で子育てをしてよかった」と振り返っていただくのが理想であります。

また、年代を越えて、地域の人々が子育てしている方を支えていけるように、子育てサポーター養成講座を平成14年度から開始しています（写真③）。



写真③

島ヶ原村

【目標】

- 親子がゆたかに育つことができる。
- 子育てをゆとりを持って楽しむことができる。
- 女性が生涯にわたって健康づくりができる。

【課題と方向性】

子育てをゆとりある楽しいものにしていただくため、親子教室等を実施していますが、参加者から相談や親子の交流、情報交換等を求める声が増えています。

また、子育てをする家族を地域で支えていけるような環境づくりも必要です。

【評価指標】

- ・ 親子が情報交換・交流できる場（教室、健診等）の内容や機会について検討します。
- ・ 気軽に相談できる場（乳児相談、家庭訪問等）の内容や機会について検討します。
- ・ 女性が気軽に健診を受けたり、相談できる場の状況について検討します。

阿山町

【目標】

安心して子どもを産み育てることのできるまちづくりを目指します。

【現状及び課題】

- ・ 乳幼児育児教室（乳児らんど・元気っ子ひろば）を実施し子育てについての情報提供や悩みの相談、同年代の子どもや親同士の交流の場づくりをしています。

今後このような教室をきっかけに育児サークルなど保護者の方々の自主的な活動にひろがっていくことを支援し、子育て経験者のアドバイスや支援を受けながら生活できる環境づくりが必要です。

- ・ 幼児期のむし歯を予防するため、3歳児健診において歯科衛生士による歯の汚れのチェックやブラッシング指導をしています。

3歳児健診におけるむし歯の数が他市町村に比べて多く、乳児期からのむし歯予防への取組が必要です。また、子どものむし歯を予防するためには、周囲の大人の意識が大切です。子どもだけの問題ではなく、住民全体の健康課題としてとらえ、今後は、定期的に健康診断を受ける、食生活（おやつや甘い物など）を見直す、毎日の歯のケア（正しいブラッシング）のしかたを学ぶなどの推進をし、むし歯数の減少に努めます。

大山田村

【目標】

- 安心して子育てができる地域づくり。
- 子どもがのびのびと成長・発達できる。
- 生命の大切さを理解し、自己決定能力を獲得できる。

【評価指標】

- ・ 育児不安を持つ母親を減少させます。
- ・ 乳幼児健診、育児教室等の参加率を増加させます。
- ・ 生活習慣の確立を支援します。

【課題と方向性】

育児に対する不安や悩みを抱えながら、かつ誰にも相談できずにいる母親が多く、また、親の生活リズムの乱れから、子どもの生活習慣が未確立となり、それに伴う発達、成長への影響が心配される児が増加しています。

発達相談、栄養相談の内容を充実させ、また、家庭訪問をとおして、育児環境を把握し、母親の不安を解消します。

子育てグループの支援をし、母親のこころの安定に努めます。また、保育士、養護教諭との協力体制の強化を図ります。

青山町

【目標】

- 健やかに子どもを育てることができる地域づくりを目指します。
- 楽しく子育てできるよう取り組みます。

【評価指標】

- ・ 母子健康手帳の交付時に保健師による面接を実施し、保健指導を行う
(1) -①-1
- ・ ハイリスク妊産婦家庭訪問の実施
(1) -②-1, 2
- ・ 母親教室の充実（参加しやすいよう土・日曜日の開催）、及び両親学級の開催
- ・ 新生児・乳児家庭訪問の実施
(1) -②-3
- ・ 発達・発育に応じた子育て講座の実施
(2) -①-4
- ・ 乳幼児健診の未受診者のフォローの実施
(2) -③-2

【課題と方向性】

子育てを楽しむことができるよう、育児不安の解消・育児ストレスの解消につとめ、また父親の育児参加を促すような取組を実施していきます。

そのためにも、まずセンターが支援・相談機関であることを認識してもらえよう、母子手帳交付時、母親教室、妊産婦訪問、新生児・乳幼児訪問、育児相談等の機会を通じて、妊娠～育児の過程で少なくとも一度は出会い、信頼関係を持てるよう努めます。

また、父親の育児への参加を促すために、父親を対象にした取組をすすめ、既存の各教室や相談等の事業開催日程を（土・日或るいは夜間の開催も含めて）考慮します。

尾鷲市

【目標】

- 全ての子どもが、心身ともにすこやかに生まれ、愛情をもって育てられ、人としてすくすく成長していくことを願い、その基盤である母性の尊重と保護および乳幼児の健康の保持増進を図るため、母子保健事業を推進します。

【評価指標】

- ・ 妊娠11週以下での妊娠の届け出 (1) - ① - 5
- ・ 未熟児出生割合、新生児・乳児死亡割合 (3) - ③ - 2・4
- ・ 妊産婦死亡割合 (1) - ④ - 2
- ・ 乳幼児健診受診率 (2) - ③ - 2
- ・ 予防接種の接種率 (3) - ① - 16・17
- ・ 3歳児健診における虫歯のない子の割合 (3) - ① - 10

【課題と方向性】

- ・ 少子高齢化が進んでいる本市としては、必要な時に適切な保健指導、助言や支援ができるよう、紀北管内統一したフローチャートにより、妊娠届け出時の妊婦アンケートの実施に始まり、節目ごとの健診や健康相談、家庭訪問指導、健康教室等を実施しています。
- ・ 健診結果から要支援となった児に対して、継続した助言や専門機関等への紹介等成長発達に応じたフォロー体制をとっています。また、未受診者のフォローを実施しています。
- ・ 近年は子育て支援にも重点をおき、子育てサークルの育成や支援を通して保護者同士の交流や情報交換の場を提供し、身近な相談者として育児支援を実施しています。また、子育て支援センター等関係機関等との連携のもと、子育て支援体制の整備を行っています。
- ・ 平成14年度より尾鷲総合病院と協働し、出産後早期に家庭訪問を実施し、母子の保健指導を通して子育てを支える環境づくりに取り組んでいます。
- ・ 今後も、一人一人の顔のみえる子育て支援を目指してさらにきめ細やかな保健活動ができるよう取り組んでいきたいと考えています。

海山町

【目標】

- 平成15年度3歳児健診受診者の1人平均虫歯本数を「1.5本」にします。

【評価指標】

- ・ フッ素塗布（予防処置）の経験がある人を増加させます。
- ・ 乳酸菌飲料を飲ませている人の割合を減少させます。
- ・ 母乳や哺乳ビンのミルクを1歳半以降も与えていた人の割合を減少させます。

【現状と課題】

乳歯のむし歯と永久歯の虫歯には強い関連が認められます。乳幼児期は歯口清掃や食習慣などの基本的な生活習慣を身につける時期として非常に重要であり、生涯を通じた健康づくりに対する波及効果も高いと考えられます。

海山町は平成11年度の3歳児1人平均虫歯本数が3.6本、有病者率65.3%であり、全国平均の1.8本に比べて非常に多いので、3歳児健診時の1人平均むし歯本数を減少させることを目標に、乳歯のむし歯の予防に重点を置いています。

・ お口の健康を考える会

子どもの虫歯は、親子だけの問題ではないということで、歯科医師、保育士、ボランティア、子育てサークル会員、祖父母、保健師、栄養士など子どもに関係のある人々が集まり、海山町の現状を共有し虫歯を減らすことを目指しています。子育てサークルでのおやつの規制や福祉健康まつりにおいて歯のコーナーを行うなど各々ができることを考えて行っています。住民、歯科医師、行政がそれぞれの役割を協力しながら行い、虫歯予防の意識を広め、虫歯数の減少に努めます。

・ フッ素塗布事業

1歳6ヶ月児健診、3歳児健診時に歯科衛生士によるフッ素塗布および歯科保健指導を行っています。また、1歳6ヶ月児健診時には、歯科医院でのフッ素塗布受診券を配布しています。健診後も歯科医院で継続してフッ素塗布を行い、家庭で虫歯予防ができる人が増えることを目指し、歯科保健の推進に努めます。

熊野市

【目標】

- 妊娠・出産の安全性の確保
- 子どものすこやかな発達の促進と育児支援

【評価指標】

- 妊娠・出産の安全性の確保
 - ・ 未熟児出生割合、乳児死亡率、自然死産率 (3) - ③ - 2
- 子どものすこやかな発達の促進と育児支援
 - ・ 育児に自信が持てない母親の割合 (0～3歳)
 - ・ 3歳児でむし歯のない子どもの割合 (3) - ① - 10

【課題と方向性】

- 妊娠・出産の安全性の確保

熊野市の母子保健の水準は三重県、全国と比べても比較的高い水準を維持しています。今後も妊娠期の異常を早期に発見し、妊娠を安全かつ安心なものにしていく必要があります。そのため、妊娠期からの保健知識の普及を行い、健診の受診や母親教室への参加を勧めるとともに、父性意識の向上と育児参加への意識を高めていきます。

*主な事業：母子健康手帳の交付（妊婦保健指導、妊婦一般健康診査受診及び母親教室の受講勧奨）、パパママ教室（両親学級）、妊婦訪問（希望者）

- 子どものすこやかな発達の促進と育児支援
 - ・ 保護者同士の情報交換や交流等を目的とした乳幼児教室や育児相談事業を実施しています。今後も乳幼児教室等において仲間づくりを行なうとともに、相談体制の充実や子育てサークルの育成・支援等子育て支援センターの充実をはかることで、安心して子育てができる環境を目指します。
 - ・ 乳幼児健康診査（4ヶ月、10ヶ月、1歳半、3歳児）受診率は約90%以上で高い状況にあります。乳幼児健康診査の結果により経過観察となった場合、異常を早期発見し適切な専門機関や福祉サービスを紹介する等、個々の発達段階に応じた指導につなげるため専門医による二次健診を実施しています。また、二次健診において療育が必要と判断された方については、教室を実施しフォロー体制の整備を進めています。今後も乳幼児の発達に大切な時期における心身の状態の確認、保護者の子育てについての不安や悩みが解消されるような健診体制を充実していきます。
 - ・ 歯科健診の結果では3歳児健康診査時でのむし歯保有率は63.0%（平成12年度）であり三重県39.07%、全国35.23%に比べ高くなっています。このことから、乳幼児のむし歯保有率を下げするため、むし歯予防に対する知識の啓発を行い、歯科保健への関心を高めていきます。

*主な事業：パパママ教室（両親学級）、新生児・赤ちゃん訪問、離乳食教室、すくすく親子相談、乳幼児教室・講演会、乳幼児健康診査、乳幼児二次健診、障害児の療育

御浜町

【目標】

- 安心して子育てができる
- 乳幼児期からの健康づくり

【評価指標】

- ・ 子どもの発達に応じた育児や健康に関する知識、情報を得られる。(2) - ①
- ・ 安定した親子関係を保てるよう、育児支援が必要な時に気軽に受けられる。(2) - ②

【課題と方向性】

平成9年度に母子保健計画を策定し妊娠・出産・子育てという継続した流れの中で事業を計画し、目標に向け取り組んできました。今年度計画の見直しを行う中、既存の事業の中でさらに子育ての現状を知り、健やかに子育てができるよう新しく工夫点を検討し取り組んでいます。

(工夫内容)

- ・ 新生児訪問数を増やす……出生届出時希望調査のはがきを全員に配布
- ・ 一貫した保健指導の実施…乳児健診から3才児健診の間診結果などを分析し、多い問題や心配事に関するパンフを作成。それに基づき統一した保健指導を行うためのマニュアルの作成。
- ・ 3才児健診での遊び指導…心理判定員による遊び指導の場をもうけます。
- ・ 妊婦教室………乳児教室と同時開催し交流を広げます。
- ・ 自主活動………幼児教室の参加者より遊び場の開放希望があり、自主活動として運営されています。

今後は評価を行っていく上で保育園、学校と連携していく必要性があります。また食生活改善推進協議会との協力による食育への取組も検討中です。

紀宝町

【基本目標（案）】

- 健やかな体を育てる
- 健やかな心を育む
- 健やかな親子の育成
- 障害児にやさしい町づくり
- 子どもに安全な町づくり
- ふれあいのある町づくり
- 働く女性の子育て援助

【評価指標（案）】

- ・ 子育てを楽しいと思う親の割合
- ・ 家族で子育てについて話し合える機会がある親の割合
- ・ 健診を受けて安心し、よかったと思う親の割合
- ・ 身近に相談できる人がいる親の割合
- ・ 発育や発達について相談や学習をする場がある親の割合
- ・ 地域で子育てをする意識を持つ人の割合

【課題と方向性（案）】

時代背景	遊びの変化	病気の変化
1 少子化 2 核家族化 3 女性の社会進出 4 住居の個室化 5 地域における交流の減少	1 体を使う遊びをする子どもの減少 2 対人的・集团的遊びの減少 TV, TVゲーム、漫画	1 死亡原因傷病 急性感染症→事故・先天異常 2 アレルギー性疾患の増加 アトピー性皮膚炎・喘息 3 落ち着かない子・きれる子の増加

主な施策

- 1 ①健康診査の充実 ②健康相談の充実 ③健康教育の充実 ④必要な知識の普及 ⑤遊び場の確保
- 2 ①健康診査の充実 ②育児相談の充実 ③育児教育の充実 ④必要な知識の普及 ⑤温かな親子関係のための支援
- 3 ①育児不安の解消支援 ②問題の早期発見と相談体制の充実
- 4 ①二次健康診査の充実 ②療育体制の充実 ③ノーマライゼーション思想の普及 ④バリアフリーの実現
- 5 ①安全な道路 ②チャイルドシートの普及 ③安全教育 ④ダイオキシン・ホルマリン等化学物質対策
- 6 ①オアシス運動の推進 ②子どもにやさしい町づくり推進会議の設置
- 7 ①延長保育 ②学童保育 ③病児保育

紀宝町では、平成11年度に母子保健計画策定委員会を設置し、第一次母子保健計画を見直し、平成12年度から10年計画で第二次母子保健計画を策定しています。平成16年度に中間見直しとしていますが、15年度に「健康きほう21」の策定と併せて、健やか親子21を踏まえ総合的な計画を策定するよう進めています。

紀和町

【目標】

●親と子が健やかに暮らせる地域社会づくりを目指します。

【評価指数（案）】

1. 母子健康手帳交付時に保健指導を行う割合
2. 妊婦相談を行う回数
3. 妊婦 1 1 週以下での妊娠届出率割合
4. 母子健康手帳交付時に母子健康管理指導事項連絡カードの説明を行う割合
5. 妊婦訪問の実施(要指導者のみ)
6. 産婦訪問の実施
7. 新生児（第1子）・希望者訪問の実施
8. 女性の更年期相談等の開催
9. 公共の場所における分煙又は禁煙実施割合
10. 妊産婦死亡
11. 1ヶ月健康診査時の母乳育児の割合（人工栄養との混合含む）
12. 食育を実施する園及び学校の割合
13. 中学・高校生の朝食欠食率の割合
14. 育児期間中の両親の自宅での喫煙率
15. 子育て講座の割合
16. 日常の育児について相談相手のいる保護者の割合（1歳6ヶ月健康診査）
17. 育児支援を目的として健康診査スタッフに心理相談員又は保育士の配置
18. 周産期医療施設から退院したハイリスク児へのフォローの割合
19. 乳幼児健康診査の未受診者のフォロー実施
20. 児童・生徒肥満の減少
21. 虐待による死亡数
22. 児童虐待防止のためのネットワークの設置
23. 子どもの健やかな育ち支援の協力員数（主任児童委員）
24. 体験活動に参加した子どもの数
25. 学校等で地域ふれあい交流の参加者数
26. 妊娠中の喫煙率
27. 妊娠中の飲酒率
28. 乳児にうつ伏せ寝をさせている親の割合
29. 心肺蘇生法を知っている親の割合（1歳6ヶ月健康診査）
30. 幼児の浴槽の転落事故防止対策を実施している家庭（1歳6ヶ月健康診査）
31. 乳幼児健康診査時に保護者に子どもの事故実態や具体的な防止対策指導の実施
32. 1歳6ヶ月児健康診査における不慮の事故率（火傷・誤嚥・溺水・交通事故）
33. チャイルドシート着用率（1歳6ヶ月健康診査）
34. う歯のない3歳児の割合
35. 学齢期の1人平均う歯数の割合
36. フッ化物歯面塗布をうけたことがある幼児（3歳健診時）の割合

37. 定期的な歯科健康診査の受診者の割合（5歳）
38. 歯磨きを1日2回以上する人の増加（3歳児健康診査）
39. かかりつけ歯科医がある人の割合
40. 1歳6ヶ月児健康診査までにBCG接種を終了している児の割合
41. 1歳6ヶ月児健康診査までに三種混合接種を終了している児の割合
42. 1歳6ヶ月児健康診査までに麻疹接種を終了している児の割合
43. 3歳児健康診査時の予防接種疾患の罹患状況（麻疹）
44. 一時保育を実施している保育所数
45. 放課後児童クラブ数
46. 育児休業制度率と利用率
47. 育児時間制度率と利用率
48. 障害児への導入
49. 重症心身障害児（者）ショートステイ事業
50. 不慮の事故死亡率（0歳、1～4歳、5～9歳、10～14歳、15～19歳）
51. 乳児死亡率
52. 乳児のSIDS死亡率
53. 幼児（1歳～4歳）死亡率
54. かかりつけ小児科医をもつ親の割合（3歳児健康診査）
55. 三重子どもの医療ダイヤルを知っている割合（3歳児健康診査）
56. 十代の人工妊娠中絶実施率
57. 性感染症罹患者に占める十代の割合（性器クラミジア・淋菌感染症・尖形コンジローム）
58. 十代の覚せい剤事犯検挙率
59. 十代の喫煙率（男・女）
60. 保育サポーターの紹介
61. 母子保健推進協議会の開催
62. 外部機関と連携した薬物乱用防止教育等の実施（小・中・一般地域）

【課題と方向性（案）】

- （1）妊娠出産の安全性と快適さの確保や不妊への支援を図ります。
- （2）子どものこころと身体の健やかな発達の支援を図ります。
- （3）安心できる小児保健医療体制の整備を図ります。
- （4）思春期保健対策の強化と健康教育の推進を図ります。

紀和町では、平成8年度に母子保健計画を策定し目標に向かって取り組んできました。今年度、「健やか親子21」にそって、紀和町の現状にあわせた紀和町版健やか親子21を策定中です。

【紀和町保健部門の事業紹介（平成14年度）】

- ★ 母子手帳の交付 ★ よい歯のコンクール ★ 親と子のよい食生活のための料理 ★ 離乳食教室
- ★ 健康づくり講話（事故予防・健康づくり・歯科） ★ 子育てサークル ★ 乳幼児健診
- ★ 妊婦健診支援 ★ 家庭訪問指導 ★ 絵本読み聞かせ事業

鵜殿村

【目標】

- 安全・安心できる子育て環境づくり
- 子どもの健やかな発育への支援

【評価指標】

- 安全・安心できる子育て環境づくり
母子健康手帳交付時に保健指導を行っている市町村 (1) - ① - 1
日常の育児について相談相手のいる保護者の割合 (2) - ② - 1
気軽に相談できる体制づくり
- 子どもの健やかな発育への支援
1歳6ヶ月健康診査までに三種混合・麻疹の予防接種を終了している児の割合 (3) - ① - 17
う歯のない3歳児の増加 (3) - ① - 10

【課題と方向性】

- 安全・安心できる子育て環境づくり
 - * 母子健康手帳の交付は、現在できる限り保健師で行っています。母子保健事業の第一歩であり、すべての妊婦と関わる大切な時期です。より一層母子保健事業の啓発に努めていきます。
 - * 鵜殿村は、県下でも、出生率の高い市町村の一つです。和歌山県新宮市のベッドタウン的地域に位置し核家族化の中、育児に対し気軽に相談できる支援体制をと考えていきます。
 - * 現在の健診場面は、病気や異常に対するスクリーニングが中心となっているが、待ち時間を利用して育児支援に視点をおいた健診を充実させ保護者の育児能力を育てていきます。また集団で健診することのメリットを生かし保護者同士の情報交換や交流を支援していきます。具体的にはボランティアによる読み聞かせなどをとり入れていきます。
両親学級等を利用して父親の育児参加への意識を高め父性意識の向上に努めていきます。
現在、お母さん方が自主的に集っているサークルに対し支援を充実させていきます。
- 子どもの健やかな発育への支援
 - * 平成12年度、1歳6ヶ月の予防接種状況において麻疹の接種率が県下で最も悪い結果となっています。幸い、3歳児の麻疹の既往者は、「なし」でしたが、早急にこのデータを改善するよう努めていきます。
予防接種は、接種内容ごとに個人通知をしています。現在、麻疹予防接種の個人通知は、集団個別接種で年一回一ヶ月の接種期間を設け1歳から2歳児を対象に村内の医療機関にお願いしています。その為、1歳6ヶ月健診の時期に麻疹の予防接種を受けていない状態になっています。今後、1歳6ヶ月前に予防接種ができる環境を整えていきます。
 - * 3歳児歯科健診の結果で虫歯になった子の割合が、平成12年度、50.7%であり、県平均の45.8%に比べ高くなっています。虫歯予防に関する知識の啓発を行い、歯科保健への関心を高めていきます。